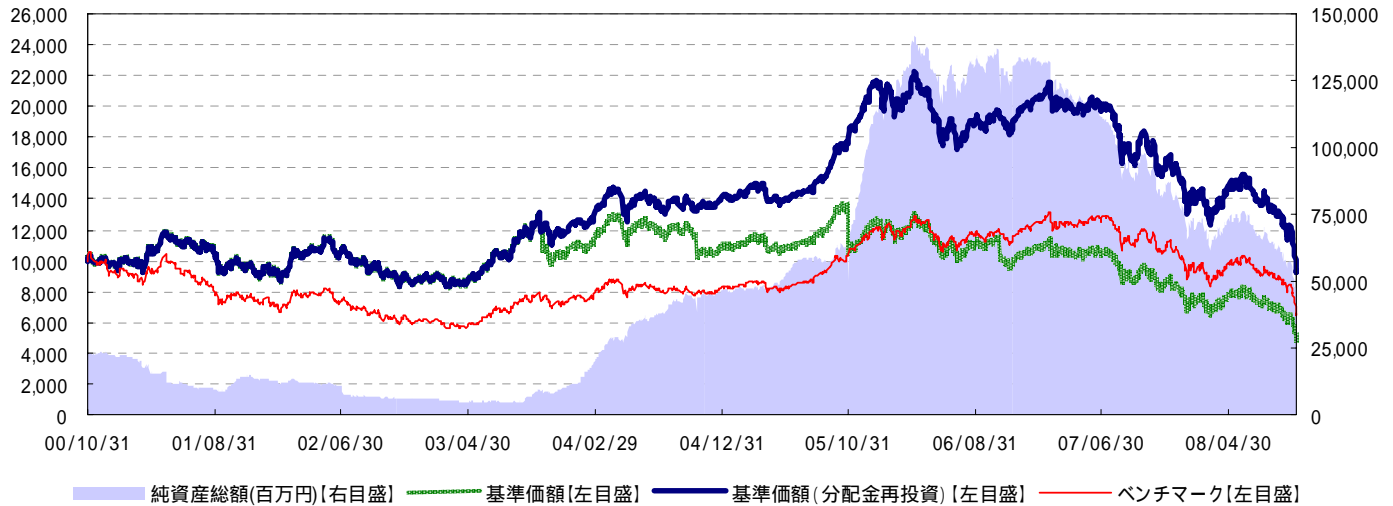


三菱UFJ 日本株アクティブ・ファンド【愛称：凜腕】 最近の基準価額の下落について

追加型株式投資信託/国内株式型(一般型)

運用状況等

基準価額の推移



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)、ベンチマークは設定日前営業日を10,000として指数化しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.575%(税抜1.5%))控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

ベンチマークは東証株価指数(TOPIX)です。

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

ファンドの現況と騰落率

	2008/10/09	2008/09/30	2008/05/30
基準価額	4,906円	5,967円	8,036円
純資産総額(百万円)	43,666	53,386	74,985

	9/30比	5/30比	設定来
ファンド	-17.8%	-38.9%	-6.6%
ベンチマーク	-16.8%	-35.7%	-34.7%
差	-1.0%	-3.2%	28.0%

- ・ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しております。また、ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しております。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。
 基準価額および分配金は1万口当たりです。
 債券評価額には、経過利子を含めて(利含み)あります。

3ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ日本株アクティブ・ファンド【愛称：凜腕】

ファンドマネージャーコメント

市況動向

5月末から10月9日にかけての国内株式市況は、TOPIXで35.7%の大幅な下落となりました。6月から8月にかけては、米国においてモロライン(米金融保証会社)の格下げやGSE(政府関連住宅金融機関)2社(ファニーメイ、フレディーマック)の経営危機など金融不安が再燃したことに加え、4-6月期実質GDP(国内総生産)の悪化など国内景気の悪化懸念が強まったことから市況は下落しました。

9月半ばには、米大手証券会社リーマン・ブラザーズ破綻に端を発した世界の金融・証券市場の混乱により、国内株式もまた、大幅な調整を余儀なくされました。その後、米国政府による金融安定化法案の可決や各国の金融当局の政策協調が発表されましたが、市場において実効性への不安がくすぶっていることから、さらに下落が進行しました。

また国内要因としては、先月末にかけて発表された経済指標が、輸出の鈍化や、雇用・所得環境の悪化、生産の落ち込みと、悪化を続ける景気の先行きへの懸念を一段と強めるものだったこと、足下の円高進行により内需企業に加えて輸出企業の業績悪化懸念が強まったことが、買い控えにつながっていると考えられます。

運用状況

当該期間の騰落率は、ベンチマークであるTOPIXが5月末比35.7%の下落であったのに対し、当ファンドは38.9%の下落となり、ベンチマークを3.2%下回りました。ベンチマークを下回った要因は、業種配分および銘柄選択がマイナスに影響したためです。業種配分は、主に電気・ガスをアンダーウェイト(ベンチマークの配分比率よりも少なくすること)、卸売業をオーバーウェイト(ベンチマークの配分比率よりも多くすること)にしていたことがマイナスに影響しました。銘柄選択においてマイナスに影響した主な銘柄は、「東京都競馬」、「エルピーダメモリ」などです。

設定来(2000年10月31日～2008年10月9日)では、ベンチマークが34.7%の下落であったのに対し、当ファンドの基準価額は6.6%の下落となっており、ベンチマークを28.0%上回っております。

今後の見通しと運用方針

米金融安定化法案が成立しましたが、米国を中心とした政策当局による対応策が実行に移され、その効果が発現し始めるまでは、世界の金融・証券市場は不安定な動きを続け、国内株式相場も大きく影響を受けざるを得ないとみています。

一方で、今週末のG7(日米欧主要7カ国)による財務相、中央銀行総裁会議などを通して、金融・証券市場が示す事態の深刻さに対する政策当局の危機感と対応努力は一層高まると考えられます。

また国内株式相場は、PBR(株価を一株当たり純資産で除したもの)や配当利回りといった代表的な株価指標からは、歴史的な割安水準まで調整しており、政策当局による一連の対策が効果を発揮し始めるにつれて、世界の金融・証券市場が落ち着きを取り戻し、国内株式市場の混乱も沈静化に向かうと考えています。

ファンドの基本的な運用方針に変更はありません。市況動向等に十分注意を払い、引き続き、ファンドのコンセプトに沿った運用を継続していく方針です。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。なお、市場の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

3ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

三菱UFJ 日本株アクティブ・ファンド【愛称: 凜腕】



追加型株式投資信託/国内株式型(一般型)

ファンドの特色

- ・資産・利益等と比較して株価が割安と判断され、かつ今後の株価上昇が期待できる銘柄(「真の割安銘柄」)を厳選し投資します。
- ・「真の割安銘柄」の選別にあたっては、次のような点等に注目します。
豊富なキャッシュフローを生み出し、これを活かす高いマネジメント力を有するか。
グループ企業も含めた総合的な収益力や、時価で評価した保有資産の価値がすぐれているか。

商品概要

設定日 : 2000年10月31日
 決算日 : 原則として、毎年10月30日(休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 無期限
 ベンチマーク : 東証株価指数(TOPIX)
 お買付け申込み・中途換金 : 原則として、いつでもお買付申込み、換金のお申込みができます。
 申込価額 : 申込受付日の基準価額
【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】
 申込時に直接ご負担いただく費用
 申込手数料 : 申込価額×3.15%(税抜3%)を上限として販売会社が定める手数料率
 換金時に直接ご負担いただく費用
 信託財産留保額 : 換金申込日の基準価額に対して0.2%を乗じた額
 保有期間中に間接的にご負担いただく費用
 信託報酬 : 純資産総額に対して、年率1.575%(税抜1.5%)
 その他費用(*) : 売買委託手数料、監査報酬、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等
 (*) 「その他費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。
 なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
 (課税関係) 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の個別元本超過額に対して課税されます。
 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

当ファンドは、主に株式を投資対象としますので、株式等の有価証券市場の相場変動、組入有価証券の発行者の信用状況の変化等により、当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。当ファンドの主な投資リスクとして、組入有価証券の価格変動リスク等があります。
 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入していません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。/ 投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/ 運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

設定・運用 ...三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会(社)投資信託協会/(社)日本証券投資顧問業協会
 <お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034(毎営業日09:00~17:00)
 <オフィシャルサイト> <http://www.am.mufg.jp/>
 基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
 (*メール配信対象外ファンドもあります。)

当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

市場リスク	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、株式を主要投資対象とし、東証株価指数 (TOPIX) を上回る投資成果をめざしていることから、株式の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、当ファンドはその影響を受け株式の価格・TOPIXが下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
信用リスク	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
流動性リスク	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている株式の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
留意事項	<p>・当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。</p>

